

金荻草陽之卷

全

和装本

ケ 5

44

6





大坪本流金花草陽之卷

春生軒斎藤定易撰

骨継之事

骨折タルニハ湯柳ヲ鑿リ其柳ヲ骨ノ髓
 へ入ヌ柳ヲ鑿リ其粉ヲ干姜ノ粉ト細抹
 シテ餅粘ニ押合件ノ柳ニ能ク塗付テ折
 折タル骨ノ髓へ入へシ其後湯柳ヲ編テ
 其編タル柳ニモ前ノ藥ヲ付其上ヲ寢ト

搦之置へシ上下ニハ四足平噓ノ茶ヲ付
へシ治スル間卧シムルヲナカレ

首骨引折タルヲ治スル茶法

河骨

土安

石見川

右等分ニ抹トシテ薄茶一服ホト酒ニ
テ嚙へシ

頭折タル馬治シテ後眼ヲ見サレヲ

大抵治スル茶法

仙芎一錢

茯苓

一兩

紫蘓二錢

右抹トシテ葱冬ノ煎汁ヲ以テ一箇ニ
一錢入日ニ三度嚙へシ

肩板馬狀并茶法

肩板タル馬ハ後ヨリ其肩ヲ見越シテ兩
方ヲ見ルニ板タル肩下落ニ見ユル者也
勿論其方ノ足伸スル者ト知ルヘシ

同茶法

土安テシテ
粉トナシ

五錢

大蓼霜

十錢

川芎

十錢

安仙菜 一錢

干姜 五錢

右株トシ温湯ニテ用ヘシ若シ痛強ク

シテ糠草ヲ踈ハ葱芥車前子ヲ煎シテ

嚙ヘシ付菜ニハ四足平噏ヲ付ヘシ

同洗藥

黃蘗

枸杞

藤瘤

右合菜シテ煎出シ苦酒少シ加ヘテ其

痛取ヲ煖シ洗ヘシ勿論肩離レタル方

々人足ヲ踏付サセ事ナキ方ノ足ヲ揚結

テ追立歩セタル吉口傳

背脊破痛ヲ治スル菜法

荏霜

葛粉

燒塩

牛皮霜

廉角霜

右等分ニ合菜シテ背脊テ洗菜ヲ以テ

毒氣ヲ洗ヒ其後件ノ菜ヲ付ヘシ穴深

クハ胡麻油ニテ付ヘシ

腰拔馬政并藥法

腰拔タル馬ハ前足ハカリ起テ腰ヲ引立
サル者也漸起立トイヘ尻腰ヲ振り走ト
モナリ歩トモナクヨロクトヨロホト卧
モアリ尾ニカナキモアリ陰脈拔テ尾ニ
カナキハ治スルヲナシ

同藥法

赤小豆一兩 河骨一兩 紫蘓二分

右抹トシテ酒ニテ唯ヘシ付菜ハ四足

平噓ニ干姜山椒活萋根天南星右四種

ヲ四足平噓ニ加味シテ摺合能酢ニテ

ユルくと延付ヘシ勿論腰拔馬ニハ腹

帶ヲ懸鞞ヲ強ク懸メヘシ

股蹈割タル菜法之事

儒道ニテ馬倒レ左右へ尻股蹈廣テ股割

低ク者也藥ニハ三方小豆湯ヲ用ヘシ

小豆湯

河骨 黒小豆花 松緑

右等分ニ抹トシテ苦酒ニテ嚙ヘシ

同突割タル菜法之事

青木葉 大麦 藤瘤

右合菜シテ煎シ出シ塩酒ヲ少シ加シ

突割タル取ヲ洗ヘシ其後付菜ヲ以其

疵ヲ治スヘシ

同付藥

天南星 廉角霜 大頭霜

右菜種ヲ胡广ノ油ニトキテ付ヘシ陰

囊ヲハ尾ニテ縫ヘシ針ハ常ノ針ヲ先

三角ニ磨少曲テ夫ニテ縫ヘキ者也口

傳

牛ニ突タルヲ治スル菜法之事

牽牛子

温石

土安

右抹トシテ松緑ヲ煎シテ嚙ヘシ皮破
レスシテ腫タルニハカラムシノ根ヲ
摺リ塩ヲ入テ付

馬ニ喰レタルヲ治スル菜法之事

蕨木ヲ煎シテ洗ヒ其後猪脂ヲ付ヘシ
又云猪熊ナトニ掛ラレタルニモ可也

蛇ニ喰レタルヲ治スル菜法之事

蛇ニ喰レタル取腫破レテ毛ノアタリニ
油キリテ見ユル者也 青鷄黒焼ヲ猪油
ニ押合テ付ヘシ治スル間ハ水ヲ忌也

甲際引ヲ治スル菜法之事

西海枝黒焼

天南星

右等分合菜シテ付ヘシ勿論洗菜ヲ
以テ能ク洗其後右菜ヲ付テ則治ヘシ
踏抜ヲ治スル菜法之更

踏拔ヲナシテハ小腕ノ邊龍毛ノ通ニテ
癸贅スル者也硫黄膏ヲ以テ則治スヘシ

硫黄膏

硫黄

松脂

牛皮霜

右合茶 ヲ猪油ヲ以テ溶シテ膏トナ
シテ其後耳ノ中ノ毛ヲ取テ右之茶ヲ
付テ踏拔タル穴ヘ入テ則治スヘシ卧
シムルトアルヘカラス

同踏拔留タルヲ治スル茶法之事

茸草

搗栗

カラエノ油

右合茶シテ梅肉ニ押合テ踏拔タル口
ニ付ヘシトキ拔サル間ハ卧シムルト
アルヘカラス又矢根止タルモ拔茶也

同茶法

茸草

蠅双

虱

右三色ヲ粘ニ押合トキ夕夕タル口ニ

付者也

同藥法

耳草 搗栗

イホ虫巢

サウウツ

右等分ニ抹トシテカラエノ油ニテ煉

テ矢根及蹈抜_ル當タル所ニ付ル也又

猪油ニテ煉テモ付ル也

其_レ宜_キ矢疵突疵ニテ腸_レタルヲ入ル菜法

灵天蓋_ノ男子産屋_ノ糞_ノ女髮_ノ黒焼

右等分ニ抹トシテ是ヲ付押入ヘシ呼

息ニ隨テ腸ヲ入ヘレ尾ヲ以テ縫ヘシ

榆柳ニテ縫タルハ猶以テ可也其後洗

菜ヲ温ク煎シテ洗又右_ノ菜ヲ胡_ノ廣油

白ニテ煉テ付也

同突疵切疵ヲ治スル秘法

突疵ニハ玉子ノ黄身ヲ取テ木綿糸ニ付

テ口ヘ押入ヘシ切疵ニハ玉子ノ白身黄

身一ツニ雜合木綿糸ニ付テ口ニ付也淺
疵ニハ玉子ノ白身ハカリ付テ可也

五味通身散

白且 紫檀 杏仁 沉香 槐

右者馬ヲ飛セ或彙倒シ身ヲ強ク歩テ
腑ヲ返スル一在倒臥テハ嘶ル者ナリ
其時右ノ菜ヲ用ヘシ声ナキハ死スル
者也勿論五味等分ニ抹トシテ冷水ニ

入テ嚙ヘシ

白楊散

白粗黑燒ニ錢 楊梅皮一錢半

右抹トシテ歩身ノ時薄茶一服ホト冷
酒ニテ酔ホト用ヘシ暫ク在テ痛出則
治スヘシ絶入タル時ハ薄茶三服ホト
入振立口中へ流シ込ヘシ菜咽喉ニ入
テ則功アリ

人參清心湯 人馬ニ用 歩身妙法

人參 大黃 當皈 白朮 木香

桂心 肉桂 黃芩 黃連 川骨

川骨ハ白水ニ滲シ
酒ニ一夜ツケテ

耳草

右等分ニ 株トシテ薄色ニイリテ其後

温湯ニ入テ振出シ 唯ヘシ

人參明氣湯 人馬ニ用 歩身妙法

人參 當皈 唐川芎 川骨 制法前
如シ

白朮 大黃 木香 茯苓 肝木

黃連 白芷

右等分ニ 株トシテ少シ炒リ振出シテ

唯ヘシ

歩身癩血ヲ治スル付藥

小麥粉 搥ヲ水ニ滲シテ其汁ニテ煉テ

痛所ニ付紙蓋ヲスヘシ癩血散シテ右ノ

茶付サル者也

歩身花疵ノ痛ヲ治スル熏菜之事

木綿 古綿一両 蓖麻子一両 白草

黒焼二両 但シ鍋墨ニテモ用ユ 沉香五分

右抹トシテ摺合歩身跡及諸疵ヲ熏テ

則治スル也士卒年負療治スルトイヘ

比日数ヲ送ル也此菜ヲ用テ其疵及痛

黄所ヲ熏ル時ハ夜間ニ平噓シテ翌日ノ

軍ニ立者也

歩身遠近ノ形状ヲ知マ

歳ヲ経タル久敷歩身ハ毛先荒ク息間荒

キ者也勿論呼吸滞ル一重シ鞆結所ヨリ

前ヲ歩タルハ出ル息滞ル鞆結所ヨリ後

ヲ歩タルハ引息滞ルト知ルヘシ又兩使

通シ腹鳴ナクシテ切々煩フ馬ハ歩身ト

察スヘシ近キ歩身ハ其所ヲ痛者也

歩身菜法

土安一錢 芍藥二錢 石見川一錢

右抹トシテ苦酒ニテ嚙ヘシ熱強ク内
ツカエテ苦シム時ハ蘇木ヲ煎シテ件
ノ菜ヲ嚙ヘシ馬ヲ冷スアアルヘカラ
前ス臍毛コハリテモロクヌクルハ治カ
タキ者ニ結馬尿結ヒ臍毛ヌケハ考
身ト察シテ本菜ニ歩身ノ菜ヲナシテ
加減ニ結馬尿結ヲ兼スヘシ

躄折形狀茶法之事

躄折ハ癰ニテハアラスシテ強ク其所ヲ
蚤熱シテ低ナク者也

同茶法

松脂^少 猪油^少 縮破^中 小豆花^大

右抹トシテ松緑ヲ煎シテ嚙ヘシ其痛
所ニハ四足平噏ヲ付ヘシ

四足平噏茶法

カラムシ粉

カラシ

土器粉

塩

苧麻和諸本草出

右等分ニ摩合水銀ニ能酢ヲ加ヘテユ
ルクト煉テ付也

血ヲ取テ其日ニ騎衆スル葉之事

鹿角霜二分

百草霜一兩 五八草半錢

松脂一分

人參二分

安息香一分

右林トシテ絞糸ノ汁ニ鉄ヲ少加ヘテ一
筒ニ半錢入テ嚙ヘシ

一切噓菜之支

スヘリヒユ

榴鉢ニテ能々摩テ石灰ヲ

等分ニ入テ煉合葉生ノ出サルヤウニ器
物ニ入百日過テ取出シテ堅メテ粉ニ十
シテ一切噓菜ニ用ルニ胡麻油ニテ煉或
猪油ニテ煉テモ付ルニ其俟熱リ懸テモ
可ニスヘリヒユハ其土用ニ取テ調合ス
ヘシ石灰ハ水テヲ用ル者也

杏摺ヲ治スル菜之夏

牛皮黑焼

大頭黑焼

右等分ニ抹トシテ其摺目ニ攪リ懸ル也胡麻油ニテ煉テ付テモ可也

焼所之菜之夏

大蓼黑焼ヲ胡麻油ニテ煉テ付ルニ

同菜法

柿柄黑焼ヲ硯墨ニテ煉テ付ヘシ皮破レ

瘡ノ如ク成タルモ能治スル也

當流宗師

日本武尊

迎來流

貞純親王

鹿嶋流

八幡太郎

義家

六條判官

為義

湯山入道中原玄性

大坪式部太浦廣秀

大坪流

村上加賀守 永幸

齊藤備前守 国忠

齊藤安藝守 好玄

齊藤備後守 忠玄

齊藤奇宮頭 辰遠

丹列住僧了慶坊

齊藤求馬助 辰光

齊藤主稅 定易

久保田宗順 弘道

